

エー A ジー G ファイブ 5 だよ



台北日本人学校における日本語補習プログラムの開発

AG5運営指導委員・東京学芸大学国際教育センター准教授 見世 千賀子

台湾チームでは、2018年度、台北日本人学校の先生方と日本国内の小学校で外国人児童の日本語指導に携わってこられた先生方の協力を得て、小学校1・2年生を対象にした日本語補習プログラムを開発しました。このたび、「日本語補習授業の活動案集」としてまとめましたので、その概要と使い方について紹介します。

はじめに

日本人学校にも、国内の学校と同様に、日本語指導が必要な子供の在籍が増えてきていますが、その多くは国際結婚家庭の子供達です。

国際結婚家庭では、家庭によって言語使用の状況が異なりますが、父親が日本人の場合、就学前の子供は母方の言語に触れる機会が多いことが予想されます。使用する言語が、就学前と就学後、そして家庭と学校とで異なる場合、学校生活や学習のいろいろな場面で、子供達に困難が生じる可能性があります。

しかし、幼少期から日本語にも触れて育ってきている国際結婚家庭の子供は、適切な日本語の支援を行うことで、日本語での学習に十分に追加でき、日本語の力を伸ばしていくことが可能になります。

そのためには、具体的かつ計画的な支援が必要です。その方法の一つとして、台北日本人学校では「日語補習（日本語補習）」を、週一回、放課後に三十五分間、年間約三十回行っています。

では、その短くも貴重な時間に、優先的にすべきことは何でしょうか。それは、少人数の子供達と教師がたくさんやり取りしながら、個々の子供の日本語の力を把握する（できる

こと・できないこと、知っていること・知らないこと等を確認する）ことと、この先一週間の学習に参加するための日本語の力をできるだけつけることです。

今回、開発したプログラムは、日本人学校に通う日本語以外の言語背景を持つ子供達が、在籍クラスの学習活動に参加するための日本語の力をつけることを目的としています。

台北日本人学校で行われている「日語補習」をベースに作成していますが、広く世界の日本人学校に在籍している日本語指導が必要な子供達に対して汎用的に使用することを想定しています。

プログラムの概要と使い方

プログラムは、主に、国語、算数、生活科に関わる約二十回分の活動案で構成されています。取り上げている内容は、在籍クラスでの学びの基礎となる部分で、日本人学校で使用する教科書の単元の配置にそって配列しています（次ページ「日本語補習プログラム小学校2年生」の表を参照）。

日本語の課題は、子供によって異なります。この活動案の順番通りにすべてを行う必要は必ずしもありません。不要な部分は割愛してください。ただしその際、子供達は「知っ

ているはず」「できるはず」と想像で判断するのではなく、「知っているか」「できるか」は、子供との実際のやり取りを通して確認してください。また逆に、各学校の行事等の事前指導や独自の学習活動を加えていたいただくことも想定しています。

次に、活動案のポイントを紹介いたします。

時間の設定

活動案は、二十分程度で実施できるように組んでいます。先に述べた通り、このプログラムは台北の「日語補習」を基にしています。一回三十五分で、授業の前後にアイスブレイクや連絡事項の伝達などの時間も必要であることを想定しています。

授業の位置づけ

活動案は、在籍クラスでの学習活動に参加するための補充型指導をイメージして作成しています。

そのため、活動案の多くは在籍クラスでの授業に「先行」する形で組んでいます。「先行学習」を中心に据えることで、そこで身に付けた日本語の力を持って在籍クラスでの授業に参加し、「わかった」「できた」という達成感や自己有用感を味わってほしいと思います。

日本語補習プログラム 小学校2年生

	教科・単元	補習の目的
1	たんぼのちえ (国語)	時間 (朝になると、2、3日経つと)、様子を読み取る、理由
2	かんさつ名人になろう1 (国語・生活)	観点：形、手ざわり、色、大きさなどの言い方を知る
3	かんさつ名人になろう2 (国語・生活)	(生活科と関連させ) 文で表現できる
4	ひっ算1 (算数)	位がわかる
5	ひっ算2 (算数)	計算の仕方 (1の位から10の位へ)
6	スイミー1 (国語)	比喩
7	スイミー2 (国語)	行動から気持ちが読み取れる
8	主語・述語 (国語)	主語・述語の意味がわかる、探せる
9	九九 (算数)	「1あたり」「いくつ分」の意味がわかり、かけ算の概念がわかる
10	しかけカードの作り方 (国語)	順序の言葉 (まず、つぎに……)、作り方のプロセスがわかる
11	1000より大きい数 (算数)	10進法の仕組みがわかる、数が読める、数が書ける
12	三角形と四角形1 (算数)	語彙 (直線、角、辺、頂点)
13	三角形と四角形2 (算数)	図形の特徴
14	スーホの白い馬1 (国語)	お話の背景がわかる (異なる国・時代・地理的關係・馬頭琴)
15	スーホの白い馬2 (国語)	主人公の行動や様子から気持ちを理解する
16	まちたんけん (生活)	知りたいことを質問することができる、メモすることができる
17	あしたへジャンプ：できるようになったこと (生活)	自分の経験を新聞・ポスターとしてまとめる
18	お話の作者になろう (国語)	誰が何をした (最低) が書ける
19	大すきなものを教えたい1 (国語)	宝物紹介 (1年時に既習) の復習を通して、宝物を紹介するメモを作る
20	大すきなものを教えたい2 (国語)	メモをもとに発表原稿を作り、発表会をする

想定される課題と目標

言語や文化的背景の異なる子供達が「日本の」授業に参加する際には、言葉・経験・習慣・既有知識の違い等が学習参加への阻害要因となることが考えられます。

活動案では、日本国内で外国人児童生徒等の日本語指導に長年携わってきた教員の知識や経験から、それぞれの単元について「どこでつまづきやすいか」を示しています。こうした想定される課題への事前の対応が「本時の目標」になります。

指導のポイント・留意点

日本語指導の経験のない教員の手がかかりともなるように、必要に応じて、指導する「語彙」や「日本語表現」等を示しました。

○展開例(想定した児童)

「休み時間等の日常会話は母語話者レベルだが、授業中、指示が通らないことがある」「活動には参加しているが、まとめや振り返りが書けない、またはそれを見ると理解していないと思われることがある」といった子供達を想定しています。

○展開例(日本語のレベル差への対応)

日本語力がより高い子供への指導のヒントは(△)、より日本語に困

難のある子供への指導のヒントは(▼)という形で、レベル差に対応できるようにしています。

○教材等

作成者がイメージした教材ですので入手できない場合は現地にあるものを使用して工夫してみてください。次ページで示している一例は二年生の算数の活動案です。図形カードを用いた「体験的な活動」は学習への興味関心を高めたり、「直線」「頂点」といったキーワードを意識的に使用させることができます。「記憶の支援」(学習用語の定着)や、日本語のモデル文を示すことで「表現の支援」をしている点などが日本語指導のポイントとなっています。

この活動は算数が題材となっていますが、根拠を持って仲間分けの理由を説明するモデル文は、他教科の学習でも応用できるものです。

今後、活動案は冊子として刊行する予定です。今年度は、これを基にした授業の検証を行いつつ、他の日本人学校への展開も図っていきたいと思います。

日本語補習プログラムや活動案の作成等に関しましてご協力いただきました先生方に、この場を借りて謝意を表します。

活動案：学年2 教科 算数 単元名 三角形と四角形1

1 授業の位置づけ(先行/復習など)：先行

2 想定される課題

新しい教科学習語彙「直線」「頂点」「辺」「角」等については日常生活で使うことがないため、理解に困難が予想される。

先行学習として体験活動を取り入れてその中で、「直線」「頂点」「辺」「角」という言葉を使うことにより理解を深めさせたい。

【本時の目標】

- ・「直線」「辺」「角」「頂点」の意味がわかる。
- ・「辺」「角」「頂点」の数に着目して仲間分けができる。

3 指導のポイント・留意点

- ・初めに、四角形・三角形・どの形でもない図形のカードを用意して、仲間分けさせる体験活動を行うことで、児童の興味関心を高める。また、特徴により分別する活動を通して教科学習言語の理解と活用を図りたい。
- ・仲間分けの根拠を話すときに必要になる言葉として「直線」「頂点」「辺」「角」を組み入れる。また、仲間分けの理由を話すときに、その言葉を活用することで記憶支援を図る。
- ・仲間分けの理由を説明するときには、モデル文「～が～だから(四角形・三角形・その他)にしました。」を使って根拠を説明することができるようにする。

4. 使用可能な教材・ワークシート

(注) 体験活動で使用する図形のカードは操作しても破れたりしないように、厚紙で作ってください。また、色等の他の要素で分けてしまったりしないように、全部同じ色で作成すると児童の思考を妨げないと思います。そのときカードに番号をふっておくと、児童が説明するとき説明しやすいと思います。

< 展開 > (指導上の留意点：△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
5分	1. いろいろな形を分ける。 めあて 「どんななかまにわけたでしょう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・四角形・三角形・その他のかたちに分かれるような図形のカードを用意して、3つのグループに分けさせる。 ・直線ではない形を必ず入れる。 ・ペアまたはグループで取り組ませる。みんなで考えを聴き合う中で自分の考えを説明できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な図形カードを用意する。 ・カードには番号を書いて分別するときに説明しやすいようにする。
10分	2. グループに分けて、その理由を発表する。 <四角形> 辺が直線で4本、頂点が4つ 4本の辺で囲まれている <三角形> 辺が直線で3本、頂点が3つ 3本の辺で囲まれている <その他> 直線ではない。	<ul style="list-style-type: none"> ・頂点は「○つ」辺は「○本」で数えることをおさえる。 ・日常会話では使用頻度が低い算数の教科学習言語を正しく使って説明できないときは、「算数では、角というよ。」というように丁寧に訂正する。 ▼・「辺で囲まれている」という日本語表現が理解できないので、動作化させて(3人ないしは4人で手をつながせるなどして)確認させる。 ・仲間分けの説明のときには、「～が～だから(四角形・三角形・その他)にしました。」というモデル文を使って説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示用の図形(ここでは五角形や六角形等は混乱するので出さない) ・「直線」「辺」「角」という言葉のカードを作り掲示する。 ・必ず言葉にはルビをふる。
5分	3. ワークシートに学習のまとめを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科学習言語にはルビをふって、児童が読み方を忘れてもいつでもわかるように支援する。 	